

ダイワ日本国債ファンド(年1回決算型) 日本銀行の金融政策と日本国債への投資機会について ～金利の上昇により中長期的なファンドの収益力は改善方向へ～

2018年8月10日

お伝えしたいポイント

- ・ 日銀の金融政策の変更観測から長期金利は上昇
- ・ イールドカーブはスティーブ化
- ・ 金利の上昇により中長期的なファンドの収益力は改善方向へ

《基準価額・純資産の推移》

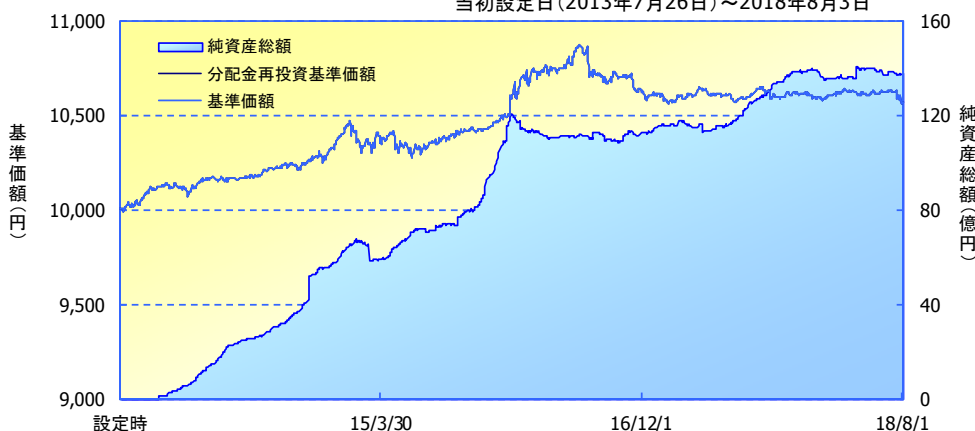
※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

2018年8月3日現在

基準価額	10,568 円
純資産総額	136億円

期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-0.5 %
3カ月間	-0.4 %
6カ月間	-0.1 %
1年間	-0.2 %
3年間	+2.1 %
5年間	+5.8 %
年初来	-0.4 %
設定来	+5.7 %



基準日現在の運用管理費用(信託報酬)は、純資産総額に対して年率0.1944%(税込)です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものです。
 ※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応当日までとし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

《分配の推移》

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (14/03)	0円
第2期 (15/03)	0円
第3期 (16/03)	0円
第4期 (17/03)	0円
第5期 (18/03)	0円
分配金合計額	設定来: 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

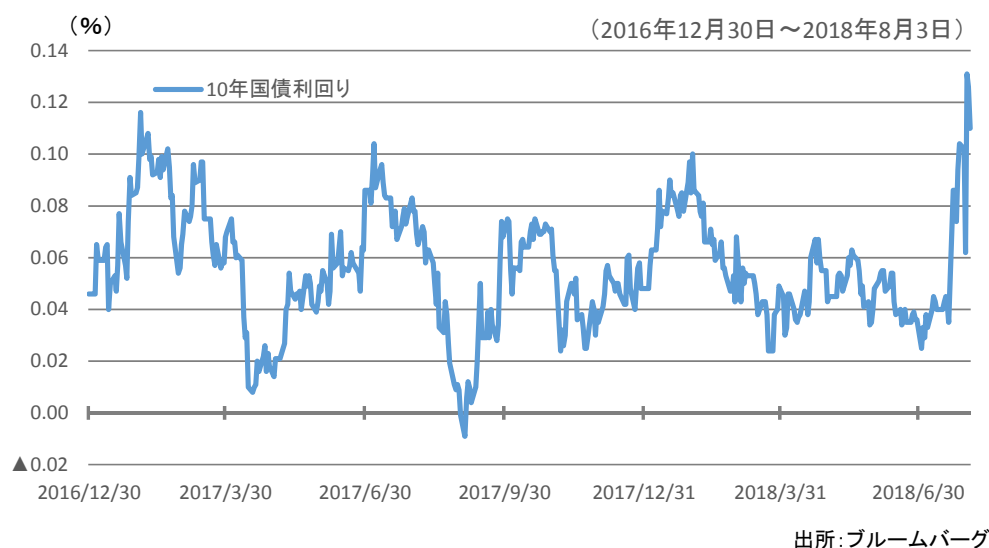
販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

<日銀の金融政策の変更観測から長期金利は上昇>

日本銀行は7月30日～31日の金融政策決定会合で、金融緩和継続のための枠組み強化を決定しました。今回の措置は、「金融緩和の長期化に対するコミットメントの強化」と「金融緩和の長期化を可能とする副作用緩和措置」という政策の組み合わせとなっています。発表で日銀は、長期金利の操作目標はゼロ%程度に維持しつつ、長期金利の変動幅の拡大を容認する方針を示しました。金融政策発表後の定例記者会見の席上で黒田日銀総裁は、長期金利の変動幅をこれまでの「プラスマイナス0.1%程度」から「プラスマイナス0.2%程度」に拡大することを念頭においていると明らかにしました。

国内債券市場では、7月下旬より日銀が金融政策を変更するとの観測が高まっていたため、長期金利は会合を前に上昇し、一時0.11%程度まで達していました。金融政策発表の7月31日にいったんは低下したものの、その後も長期金利は0.1%を上回って推移しています。金利が上昇したため、当ファンドの分配金再投資基準価額は、6月末から8月3日までで0.5%下落しました。

長期金利の推移

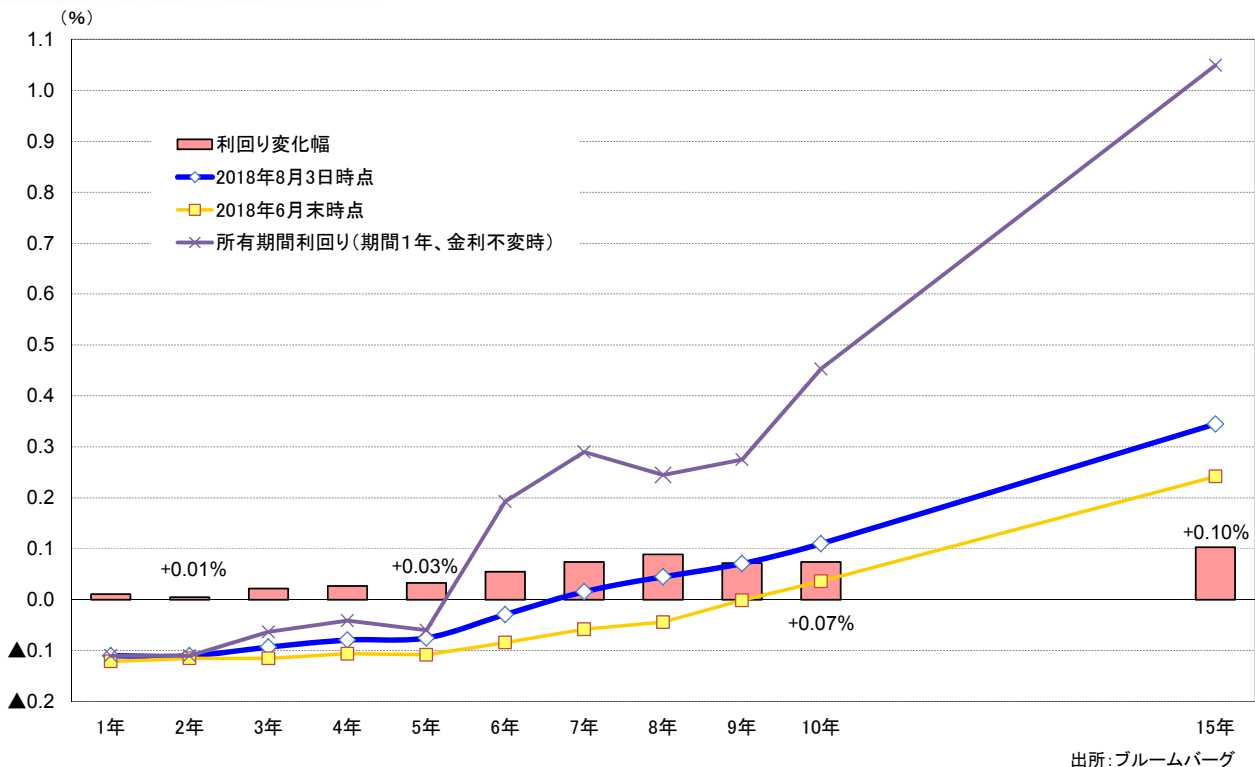


<イールドカーブはスティープ化>

6月末と8月3日の日本国債のイールドカーブ（利回り曲線）を比べてみると、スティープ化（利回り曲線の傾きが急になること）が分かります。残存が短めの債券の利回りの上昇幅よりも、残存が長い債券の利回りの上昇幅が大きかったためです。日銀は7月31日の金融政策発表で、イールドカーブ・コントロール政策（短期金利をマイナス圏で、長期金利をゼロ%程度で推移させる政策）を維持したため、残存10年程度までの債券の利回りは低く保たれやすかった一方で、10年超の利回りは日銀のコントロールの対象に入っておらず、より金利が上昇しやすかったことがこの背景にあります。

日銀は当分の間、残存10年程度までの金利水準を極めて低い水準に維持することを想定しているため、10年超の年限を中心として、イールドカーブはスティープ化しやすい状況が続くと考えられます。

イールドカーブの変化と所有期間利回り



※所有期間利回りは、イールドカーブが変わらないことを前提とした際に、1年間各年限の債券を保有し続けた場合のトータルリターン(予測値)を表しています。

<金利の上昇により中長期的なファンドの収益力は改善方向へ>

国内債券市場では日銀が長期金利の変動幅の拡大を容認する方針を示したことから、金利の変動幅が拡大する見込みです。これまで0.0%~0.1%のレンジで推移していた長期金利は、一時的に上限の0.2%程度を試す場面もあり得ますが、中期的に0.10%~0.15%程度の水準に落ち着くものと想定しています。また、イールドカーブは長期から超長期債を中心にスティープ化することが考えられます。

残存0年~15年までの日本国債にラダー型ポートフォリオで投資する当ファンドへの影響としては、主に以下の3点が考えられます。

- ①金利が上昇したことで、ファンドの最終利回りが上昇すること。
- ②ラダー型ポートフォリオを維持する際、利金・償還金をより高い利回りの債券へ再投資できること。
- ③イールドカーブのスティープ化により、より大きなロールダウン効果と所有期間利回りの改善が期待できること。

今後金利が上昇した場面では、債券価格の下落により基準価額は下落することが想定されます。一方で、金利が上昇したことにより中長期的には上記①~③の要因から、ファンドの収益力が改善することが期待できます。

当ファンドは引き続き、マザーファンドを通じて日本国債に投資し、残存0年~15年までの残存1年ごとの組入比率がほぼ均等となるようなラダー型ポートフォリオを構築することで、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長を目指す方針です。

以上

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

ダイワ日本国債ファンド(年1回決算型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- わが国の国債に投資し、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざします。

ファンドの特色

1. わが国の国債に投資し、残存期間の異なる債券の利息収入を幅広く確保することをめざして運用を行ないます。
 - 原則として、最長15年程度までの国債を、各残存期間ごとの投資金額がほぼ同程度となるように組入れます。このような運用手法を等金額投資(ラダー型運用)といいます。
 - 等金額投資(ラダー型運用)について
債券の残存期間ごとに等金額の投資を行ない、常にラダー(はしご)の形の満期構成になるようにする運用手法です。
2. 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。
 - マザーファンドは、「ダイワ日本国債マザーファンド」です。
3. 毎年3月10日(休業日の場合翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「公社債の価格変動(価格変動リスク・信用リスク)」、「その他(解約申込みに伴うリスク等)」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。

ダイワ日本国債ファンド(年1回決算型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 <上限>1.08%(税抜1.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	<p>年率 0.756% (税抜 0.7%) 以内</p> <p>前記の運用管理費用(年率)は、毎月10日(休業日の場合翌営業日)における新発10年国債の利回り(日本相互証券株式会社発表の終値)に応じて、純資産総額に対して以下の率とします。</p> <p>新発10年国債の利回りが</p> <p>イ. 1%未満の場合 …………… 年率 0.1944%(税抜 0.18%)</p> <p>ロ. 1%以上 2%未満の場合 …… 年率 0.324%(税抜 0.3%)</p> <p>ハ. 2%以上 3%未満の場合 …… 年率 0.432%(税抜 0.4%)</p> <p>ニ. 3%以上 4%未満の場合 …… 年率 0.540%(税抜 0.5%)</p> <p>ホ. 4%以上 5%未満の場合 …… 年率 0.648%(税抜 0.6%)</p> <p>ヘ. 5%以上の場合 …………… 年率 0.756%(税抜 0.7%)</p>	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
その他の費用・手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用:

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

ダイワ日本国債ファンド（年1回決算型） 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社愛知銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第12号	○		
株式会社あおぞら銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第8号	○	○	
株式会社青森銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第1号	○		
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第117号	○	○	
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第53号	○	○	
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第56号	○		
株式会社静岡中央銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第15号	○		
湘南信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第192号	○		
全国信用協同組合連合会	登録金融機関	関東財務局長(登金)第300号			
ソニー銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第578号	○	○	○
株式会社第三銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第16号	○		
株式会社大東銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第17号	○		
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第39号	○	○	
株式会社中京銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第17号	○		
株式会社東北銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第8号	○		
株式会社栃木銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第57号	○		
株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第7号	○		
株式会社三重銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第11号	○		
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第6号	○	○	○
みずほ信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第34号	○	○	○
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第12号	○	○	
株式会社山形銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第12号	○		
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第6号	○	○	
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第41号	○		
いちよし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第24号	○		○
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○	○
岡三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○		○
岡三にいがた証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第169号	○		
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○		
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○	○	○
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○		○
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○		
日の出証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第31号	○		
松阪証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第19号	○		○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○		○
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第105号	○		○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○		

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。